

# 星 肩

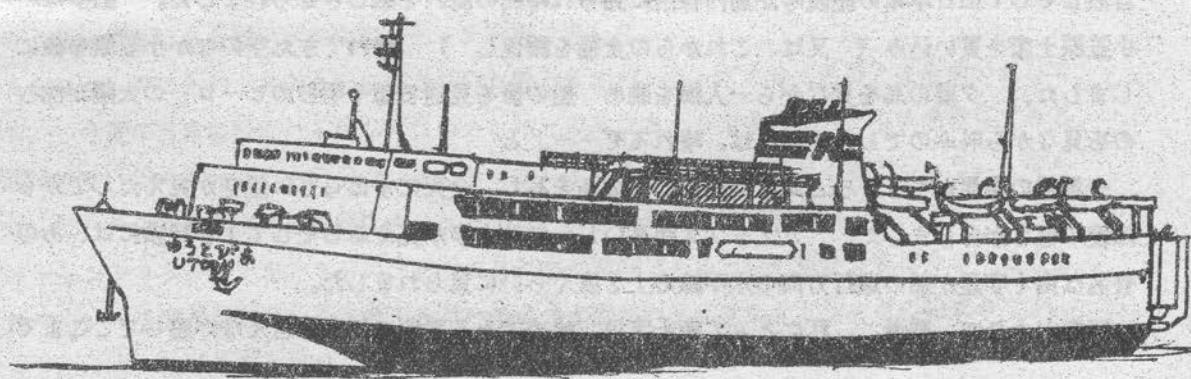
---

---



5

1988 No. 160



関西支部 堀田 守男

みなさん、お久しう振りです。 実に記事を書くのは3年振りの復活でーす。

昨年の9月に沖縄で見られた金環日食を見に行かずにお金を貯めて神戸港出航のサンフラワー7での皆既日食ツアーに参加しました。

さて 私にとっての日食ツアーの始まりは、3月14日の夜からです。 その日は、すい星会議! N字都宮に参加する為に一路バイクで北上してきた高田君を神戸に迎え、明日からの日食ツアー出航への荷物持ちとして働いてもらいました。

15日 朝から新村君を地下鉄名谷駅に高田君と迎えにいき それから食糧調達や私の荷物等の運びこみを行い、18時過に今度は、熊本より小林J氏 安達さん 東京より下郡君等が集り また大阪の有馬じいさんを呼び関西支部による壮行会を三ノ宮の炉ばたで行いました。 久し振りのなつかしいメンバーの顔を見ておおいに盛り上がり その延長のまま神戸港へ行きました。 日食ツアー一船”サンフラワー7”の前では、熊大工学部必勝の歌「血をすり涙して・・・」を何年振りかで歌いました。 熊大天文研究会のみなさんこの歌は、必ず覚えときましょう。

名残雪の舞う神戸港を23時に有馬じいさんと高田を神戸港に残し船は出航していきました。 ほろ酔い気分のなか 2次会は、NEW星の広場のメンバーらとAM2時迄日食のことやcomet等色々と話をして日食の成功を祈り眠りに就く

16日 この日は、日食の予行演習が行われました。私は、二日酔いやら船酔いやら分らないままベッドに寝ていて観測すべき自分の場所が取れなかった。（神戸の仲間は、観測のベストポジションである船の右舷に陣どったのでした。）しかし これが後で幸いでした。

17日 船の揺れにも慣れたころ やっと小笠原 父島に到着する。 天気は曇りのち晴れで生暖かかった。朝より島内をレンタカーで見て回りました。 たぶんこれが最初で最後であろう。 . .

この父島は、一周数十KMで10人でレンタカーを午前と午後に分けて乗り回しました。数時間で十分回れそして珊瑚礁の中を泳ぎ、 少しは日焼けをしました。

自然とそして旧日本軍の施設等が島内各所に見られ時間の流れを感じさせられました。 数少ない小笠原土産を買い込み（又は、これから食糧を調達し） 晴れてきた空のなか小笠原を後にしました。 夕暮の島を見ながら一人海を眺め 船の傍を見送る鯨や明日のヒーローの太陽が沈むのを見ながら叫ぶのでした「明日は、晴れるぞー」と

一番星の金星がギラギラと輝き海面上に光の条を写し 全天にすばらしい星空が見えだしてから緯度の低さが分りました。 カノープスが高いし にせ十字が見えるしそして12時頃には、あの有名な南十字星が船の進行方向の水平線の上2度ぐらいに見られました。

写真どうりで 感激 私にとって南十字は、始めてみる星座で何とも言えない感じでここまで

きたかいがありました。今まで一番見てみたかった星座ですから感激です。この時は実際のところ明日の皆既が見れなくともいいと思った。（自分にこういい気かせて暴った時の慰めをしていた。）

18日 日食の当日 晴れ 7時に朝食をとり準備をする。わたしは、特設デッキの空いている場所の一一番前に陣りました。器材は、眼視用にピクセン25\*125の双眼鏡と写真撮影用にトミーファミスコ60+PENTAX MXを使用しました。部分日食は、肉眼で観望して皆既に全精力を注ぎこむことにしていました。皆既に近かづくにつれて回りは暗くなり そして空には雲がモクモクと現われ船はそれを避けるため右往左往してしまいそれにつられて双眼鏡も右往左往船長の判断で船首を当初予定の東へ向かうのを西へ向けたのは、皆既の10分前ぐらいでした。これにより最良の観測場所が船のマスト等により影になり悲惨な目に遭うのでした。このメンバーが、NEW星の広場の面々でした。HOは、予行演習のときにいなかったのでこの場所がどれなかったのですが、天は我を見捨てずで最高の所で見れましたが、なにしろ東や東やと思っていたのに西に変更になったので慌ててしまいました。

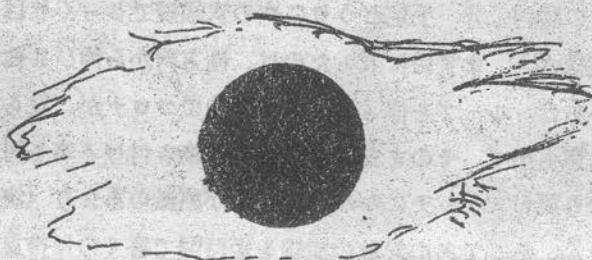
このころより雲を呼ぶ菅野氏（菅野一三枝一藤川 すい星の発見者）の声のテープによる「皆既食まであと3分」のカウントダウンで益々緊張していった。金星でカメラのピントをあわす予定が金星がマストに隠れて見えずで焦っているところに皆既1分前になり カメラを太陽に向けて恐々とファインダーをのぞくともうプロミネンスや内部コロナがしっかりと見えておりそれでピントを合わせダイヤモンドリングの瞬間を待ったが、カメラのファインダーのせいもありいまいち分らぬままシャッターを押した これから1/1000からフィルムの続くまで2枚写しては露出を変えて13枚の写真をとった。この間約1分 予定どおりに次の双眼鏡でじっくり目に焼き付ける事にした。素晴らしいコロナの流線！！ まず目に入ったのは、極方向から伸びる曲がった流線でした。そしてプロミネンスの方向からは ループを伴ったスプーン状のコロナが、見られました。声を出してテープに録音しようにも声も出ず そのままひたすら目に焼き付ける事を思い双眼鏡から見える無数の流線を観察し気を取り戻しスケッチにかかったが手が感激のあまり（決してアル中でない。）手が震えて線がうまくできません、そしてあの無数の流線を短時間で書くのは神業で 私には出来ませんが、雰囲気だけもと思い大まかなスケッチを取りました。

こんなスケッチでもいつまでも心に焼き付いた像とオオバーラップさせてあのときを思いだしています。今度の日食に行かれるKCAOのメンバーのみなさんも出来ればスケッチを取ってみる事を薦めます 旨く取れずとも自分だけのコロナが、ずっと心に刻みつける事でしょう。なんってたって 今の写真技術では絶対にあのコロナは、再現できないのですから。本当ですよ！！！ ダイヤモンドリングまであと1分のアナウンスにまだ時間はあるといい気かせまばたきするのも惜しむぐらい一生懸命に見ていると右下から一条の光が現われダイヤモンドリングの始まりです。カラットの小さい指輪の回りには、コロナがまだしっかりと見えており そして ダイヤもだんだんと大きくなっている そして太陽が戻ってきました。



写真をはって下さい。

この写真は月刊天文7月号に入選したもので、



写真をはって下さい。

表紙の説明とあわび、

表紙の船は小笠原沖日食観測クルーズに参加した西日本汽船の  
客船「ゆうとぴあ」です。しかし本文の船は「さんふらわあ7」です。手持  
の資料の中に「さんふらわあ7」の写真・絵がなかったので「ゆうとぴあ」で  
代えさせていたたきました。ご了承下さい。



この写真は月刊天文7月号に入選したものです。



表紙の説明とおわり。

表紙の船は小笠原沖日食観測クルーズに参加した西日本汽船の  
客船「ゆうとぴあ」です。しかし本文の船は「さんふらわあ7」です。手持  
の資料の中に「さんふらわあ7」の写真・絵がなかったので「ゆうとぴあ」で  
代えさせていたたきました。ご了承下さい。

やったー 日食成功!!!! デッキの上では自然に拍手が起り 「日食成功万歳 新田船長万歳」 のコールが沸き起きました。

部分食も終り この感激をみんなで味わう為のおきまりコースが、下の食堂でいつものメンバーで行われました。 みんなの顔には、その感激と緊張からの解放された安堵感が現われました。 私達に素晴らしいコロナを見せていただいた万物すべてに乾杯！ ワイン・ビール・スコッチ等のアルコールを光を取り戻した太陽の元で心ゆくまで楽しみました。

19日 二日酔のため一日中寝て過ごす。

20日 やっと神戸港につき陸地に足を下ろすが 頭の中は揺れておりしんどかった。

これで今回の日食の顛末記を終ります。

今も私の頭の中に双眼鏡の視野いっぱい広がったコロナ そうまるで翼を広げた鳥の形をした風が、ユラユラと視野に揺れている姿が思い受かびます。

つぎは、ハワイ・メキシコ 1991年7月 私は、ハワイ島に神戸の連中と行きます。 ちなみにもう宿を確保しました。 今から準備しとかないと・・・

おしまい H.O.

#### \* \* \* \* 今、関西が面白い \* \* \* \*

\* 弱い弱いと言われていた阪神タイガースが、どういう訳かよく勝つている この調子で勝たれると甲子園にまた通うこととなりそうです、そして星を見に行く回数が減ってしまいそうです。 早く76連勝でもして火星の接近までにけりをつてしまいましょう！

\* 先日、大阪で天体望遠鏡SHOWが協栄産業主催で行われ 観測疲れの中行ってみるとこないだの日食のメンバーに一人二人と出会い そして有馬じいさんにも会いなんやかやと花見の宴になっていた。酒 好っきやねん

\* 奈良に住んでいた長谷川先生が、神戸に戻ってこられ神戸の天文の例会にも顔を出され色々と教えてもらっています。 素晴らしい環境でしょう。 なに長谷川一郎先生を知らないって？ あなたは、天文のもぐりだ！ なんちゃって

そろそろ88年関西支部の例会をパッと行います。星屑に書けなかった日食ツアーナンノより由紀チャンが、強かった。 千ヶ峰観測所計画等 話題満載情報パンク

詳しくは堀田まで TEL 078-707-0694

バイクの旅 第2弾

熊襲が仙台にやって来た!!  
仙台天文台・仙台天文同好会訪問

高田ゆういち

彗星会議の席で、仙台天文同好会の遊佐 敬さんと知合いになった。もともと今回の旅は勝手気ままな一人旅、宇都宮からの帰りは、どこかいろいろ寄つて回って帰ろうと考えていたから、絶好の機会とばかりに「せっかく、宇都宮まで来たんだから、ぜひ仙台の天文台を見学したい。」と無理やり頼み込んで押しかけていった。

仙台市天文台は、市の中心部からすぐ近く、仙台城に向かう通りの桜ヶ岡公園のなかにある。この天文台の母体となったのは、仙台天文同好会で、市の天文台として昭和30年41cm反射望遠鏡からスタート。その後、プラネタリウム、展示室と次々増築していったそうである。

私が訪ねていった時は、台長の小坂氏、小石川氏を始め職員の方が10名ほどおられた。単なる事務職という人は誰もおらず、交代でプラネタリウムのプログラム作りや解説もやるし、それぞれ研究観測もされているようである。このあと小石川氏の案内で各種展示物を観てまわった。たいていの博物館は立派な展示物もさあ勝手に観てくれとばかりに並べてあるだけだが、驚いたことにここでは職員の人が出歩いて直接お客様に説明している。特に41cm反射望遠鏡を前にしての小石川氏の説明のうまさにはうなってしまった。

台長の小坂氏は非常に若い。事務室に詰めかける学生との会話を楽しんでおられる。これは私と遊佐さんの会話。「今晚晴れたら(夜の)11時ごろ天文台に電話して、台長がいたら望遠鏡使えるよ。」「今日の夜は小坂さんがおられるんですか?」「いやーいつも天文台にいらっしゃるよ。いつもたいてい5時に一回、自宅に戻られてそれから11時ごろ天文台に出てこられる。それから朝まで泊まっていかれる。」「うへー!」「台長がいれば、同好会の者も訪ねていけてよく夜中話なんかしにいくよ。」

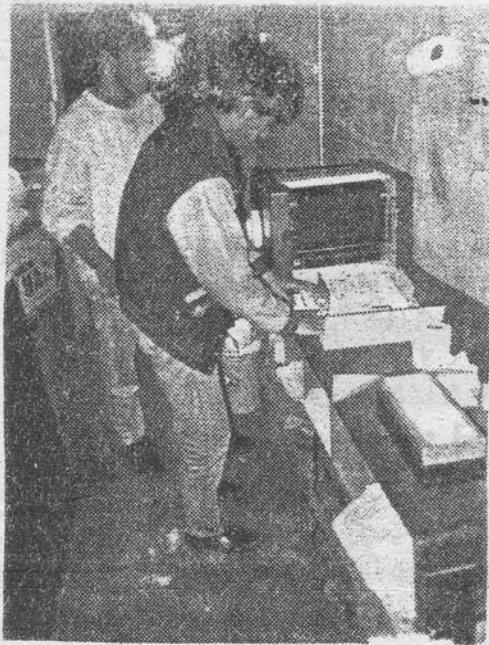
いい忘れていましたが、仙台天文同好会の事務室は、この天文台の1室をかりておかれている。会員は仙台市を中心に小学生からいるようである。(人數を聞くのを忘れていた)月に一回、会誌「星座 The constellation」を発行している。で、私が訪ねた時は会誌の発行の日であった。昨年1年間、墨局

\* 熊襲

私が訪れたちょうどこの頃は、Suntoryの「熊襲発言」で東北は大揺れに揺れていた。酒屋ではSuntoryだけが売れ残っていた。この騒動のため私は「熊本」から来たと言うだけで「本物の熊襲が来た」といわれのない迫害(?)を受けた。



天文台の職員の方々



天文台内で印刷をやっているところ

\* かせ

県外の方のために説明。熊本の方言で「手伝う」という意味。ちなみに、「一生懸命働く」ことを「がまだす」という。

\* 熊大

熊本大学の略

\* 音響室

プラネタリウム室より音響室の方が若干暖かくて眠りやすいようである。

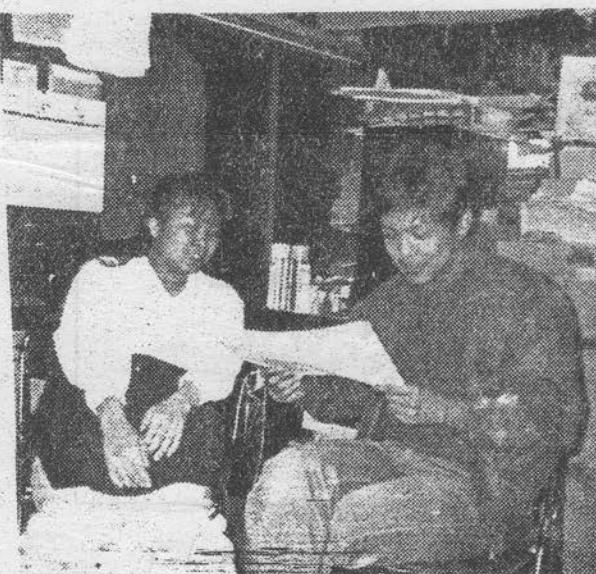
編集に携わってきただけに、どんなにしてできあがるのか、興味深々であった。印刷の日は前の会議で連絡してあって、いつも土曜の夕方からである。その日はあいにくの雨で集まりがわるかったようである。それでも、大学生や、高校生が天文台にかせしに集まってきて、遊佐氏（この日、天文台の一室でカンヅメにされていた）の彗星会議の原稿ができるやいなや、印刷が始まった。この日の「星座」は「月面観測会特集」とうっての、全22頁の大作。内容は月面のほか太陽観測、彗星会議、日食報告、星雲星団観測、瀬戸大橋で地球の曲率を実証する話など盛り沢山。

仙台をみていると、こんな風に街の中心部で会員の人がすぐ集まる所があったらいいというのが良く分かる。熊本の場合を考えると、県民天文台は熊本市から離れたところにあって、とくに交通手段をもたない高校生以下は利用しにくい。また普段出なれていない人には、出てくるのはちょっとおっくうである。市博物館も会員が簡単に使えるという様な所でもない。だからいきおい墨局などは熊大天文研究会が部室としている下宿で印刷、発行を熊大生だけでやってしまうことになる。編集委員は多少なりとも「熊大生だけでやっている」ことが負担になりつつある。なにかいい方法ありませんかねー？

「星座」の発送が終ったあとは、会員はシュラフをとりだしてプラネタリウム室や音響室に潜り込んでそのまま天文台泊まり。私はこの時は同好会室のベッドを借用。

短い間で天文台や同好会の活動に十分ついてみてまわれなかつたが、小坂氏をはじめとする天文台職員と同好会の交流が密なことが、お互い刺激して活動がうまくいく要因になっているようである。

バイクの旅はこの後、本州最北端を目指して下北半島の大間崎という所まで行きます。下北半島から憧れの北海道がみえました。その頃、県民天文台では口の悪い誰かさんが「高田は東北に行ったつきり行方不明になっている。もう熊本には戻ってこないそうですよ」と噂を流していたそうである。まったく、ちょっと熊本を離れるところは言われないんだから・・・。



この二人は東北大の学生兼プラネタリウムの声優で台本を見ながら練習をやっている。

### 編集後記

ここに星屑5月号をお届けします。そう、これは5月号なのです。それなのに、内容はというと3月18日の小笠原沖日食と、高田さんが彗星会議のあと仙台市天文台へいった話。どちらも3月から4月にかけての出来事、そして今は6月・・・、どうしてこんなことになったのかというと、いろいろと事情があるのですが、まあ内容の良さに免じて許してください。そして償いとして、私はここに宣言したいと思います。

## 星屑6月号(No161)は6月中にだします！！

こう書いておけば6月号の原稿は締切に遅れることはないであろう。やった！なんて私は頭がいいんだ！と書いたところでいやな考えが頭をよぎった。こんなことを書いて、それで6月中に出なければ私の信用はがた落ちではないか。うーん、早かったかなと いつつも、取り消す気は毛頭なったりする。まあいいや、なんとかなるだろう（ならなかったりして）。

それではそういうことで、皆さん6月号でまたお会いしましょう。

熊本県民天文台機関誌「星屑」 1983年 5月号 通巻160号

発行所 熊本県民天文台 〒861-42 熊本県下益城郡城南町藤山

TEL 0964-28-6060

熊本県民天文台事務局 〒860 熊本市古京町3番2号 熊本博物館内

TEL 096-324-3500

振替口座 熊本8-24463

熊本県民天文台事務局

編集担当 浅地伸威